

別刷

## 大学院学生募集要項 医療科学研究科 修士課程 臨床心理学分野

本学は、平成25年4月に保健衛生学部医療福祉学科に臨床心理が学べる臨床心理学コース（平成30年4月より臨床心理学専攻に名称変更）を設置しましたが、この度、平成30年4月より公認心理師、臨床心理士を養成するための大学院修士課程を開設することとなり、次のとおり学生募集を行います。

### 入試日程

出願期間（締切日消印有効）	試験日	合格発表日
平成30年2月9日（金） ～2月19日（月）	平成30年3月3日（土）	平成30年3月10日（土）

### 出願資格

- 1) 大学を卒業した方、または平成30年3月卒業見込みの方
- 2) 社会人特別選抜は、上記の1)に該当し、現在、病院、会社・公的機関等に1年以上在職中である方

※公認心理師の受験資格取得を希望する方は、卒業大学の成績証明書、シラバスを基に出願資格を判定します。出願開始日の2週間前までに、入学課まで連絡をお願い致します。

### 出願の前に

出願を希望する方は指導教員との打ち合わせを行って頂きますので、出願前に必ず入学課までご連絡をお願い致します。

指導教員は、研究指導教員一覧をご参照ください。

### 選抜方法

筆記試験（臨床心理学に関する問題、時間は90分）および面接

- ・本学学部生および卒業生は学部成績により筆記試験を免除する場合があります。（出願時の書類審査により、該当者には連絡致します。）

試験時間割、試験会場、出願書類、合格発表、入学諸費用、奨学金制度、長期履修制度につきましては、平成30年度大学院学生募集要項（入試形態は2期入試を讀替える）をご参照ください。

出願の際は、平成30年度大学院学生募集要項に添付の入学志願票等をご使用ください。

医療科学研究科・臨床心理学分野<修士課程> カリキュラム（変更になる場合があります。）

公認心理師・臨床心理士資格取得コース

							平成30年度4月入学者	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		公認心理師	臨床心理士		備考
			必修	選択				
臨床心理学分野	保健医療分野に関する理論と支援の展開	1・2		2	○	○	D	本課程に2年以上在学して所定の授業科目について30単位以上(必修10単位、選択20単位以上)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。
	福祉分野に関する理論と支援の展開	1・2		2	○	○	B	
	教育分野に関する理論と支援の展開	1・2		2	○			
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1・2		2	○	○	C	
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1・2		2	○			
	心理的アセスメントに関する理論と実践	1・2		2	○	○	必	
	心理支援に関する理論と実践	1・2		2	○	○	必	
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	1・2		2	○	○	C	
	心の健康教育に関する理論と実践	1・2		2	○			
	心理実践実習(450時間)	1～2		10	○			
	臨床心理学特論	1～2		4		○	※必	
	臨床心理面接特論	1・2		2		○	※必	
	臨床心理査定演習	1・2		2		○	※必	
	臨床心理基礎実習	1		2		○	※必	
	臨床心理実習	2		2		○	※必	
	心理学研究法特論	1・2		2		○	A	
	臨床心理学研究法特論	1・2		2		○	A	
	人格心理学特論	1・2		2		○	B	
	精神医学特論	1・2		2		○	D	
	投映法特論	1・2		2		○	E	
心理療法特論	1・2		2		○	E		
分野共通	医学統計特論	1・2		2				
	医療科学輪講 I	1～2	4					
	医療科学特別研究 I	1～2	6					

公認心理師 修了要件単位 38

臨床心理士 修了要件単位 36 (必修7科目16単位、A～Eよりそれぞれ2単位以上)

臨床心理士関係の「※印付き必修科目」と「E領域科目」は、臨床心理士志望院生以外は受講できない。

授業科目概要(講義内容は変更になる場合があります。)

授業科目の名称	講義等の内容
保健医療分野に関する理論と支援の展開	医療・保健機関で心理専門職として働くために必要な基礎知識を習得し、チーム医療を実践するための基本的な医学知識や他の専門職に関する知識を習得する。また、支援の実際と他職種との連携について具体的な事例を通して学ぶ。
福祉分野に関する理論と支援の展開	福祉分野の対象となる子ども、障害児(者)、高齢者の心理に関する基本的な知識や理論を学び、彼らへの支援及び他の専門職(行政職、医師、教師等)との連携について具体的な事例を通して学ぶ。
教育分野に関する理論と支援の展開	スクールカウンセラーや大学カウンセラーなど教育分野で働く心理専門職として必要な基礎知識を習得し、児童(生徒・学生)および保護者への支援と他職種(教師、医師、行政職員など)との連携について具体的な事例を通して学ぶ。
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	非行や犯罪が生じるメカニズムと更生のメカニズムについての基礎知識を学び、支援と他職種との連携について具体的な事例を通して学ぶ。また、犯罪者の心理だけでなく、被害者の心理、家庭内紛争にある子どもや家族の心理についても学び、彼らへの支援についても学ぶ。
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	労働関連法規や産業保健など産業・労働分野に関する理論や知識を学び、過重労働やハラスメント、リワークなどこの分野で心理職の関与が必要な問題と支援について具体的な事例を通して学ぶ。
心理的アセスメントに関する理論と実践	心理的アセスメントに有用な情報(生育歴、家族の状況等)を把握する方法、関与観察、心理検査の種類や特徴についての知識と技法を学び、それらの記録、結果の解釈、報告書の作成について具体的な事例をもとに学ぶ。
心理支援に関する理論と実践	力動論に基づく心理療法および行動論・認知論に基づく心理療法を中心にその他の心理療法の理論と方法について学ぶ。その上で支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援の方法を選択・調整できる能力を身につける。
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	支援を求める者に関わる家族やコミュニティ(家族・学校・職場等)も視野に入れたアセスメントと支援の方法について具体的な事例をもとに学ぶ。また、離婚や再婚に伴う多様な形態の家族やシングル家庭等、近年新たに生じてきた家族形態が抱える問題とその支援についても学ぶ。
心の健康教育に関する理論と実践	身体的な要因だけでなく、環境への適応などに関する心理的側面、生活習慣などの行動的側面、文化や環境などを含む社会的側面を考慮し、人々が健康に生活するための理論と実践について概説する。その上で医療・保健・教育・産業等のさまざまな分野における心の健康教育の実践について学ぶ。
心理実践実習(450時間)	大学附属施設での実習(270時間):大学附属こころの相談センターおよび大学附属こころのクリニックにおいて、実際の事例を担当する。具体的には、心理アセスメント、心理面接、スーパービジョン、インテークカンファレンス・ケースカンファレンスの参加および発表・討議等の実習を行う。なお、このうち90時間はこころのクリニックでの実習となる。 学外実習(180時間):学外の医療機関、教育・福祉・司法・産業分野の機関において、治療や相談の陪席や見学を通して、支援の実際や他職種との連携について学ぶ。
臨床心理学特論	臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理地域援助、臨床心理学研究法の4つの柱について概説し、それらを実施する際の倫理について学ぶ。
臨床心理面接特論	力動的心理学療法、認知・行動療法的心理学療法、その他の心理学療法について具体的な事例をもとに学ぶ。
臨床心理査定演習	心理臨床の現場でよく使用される検査の選択の仕方やテストバッテリーの組み方について学ぶ。また、検査データをもとに所見や報告書を実際書いてみる。以上のような演習を通して、適切な心理検査の選択と報告書の書き方を学ぶ。
臨床心理基礎実習	臨床心理実践の基本的態度や技能、倫理を学び、あわせて臨床心理実習に向けた事前指導を行う。臨床心理学の理論と方法を実践にいかすための基礎的なトレーニングを実施し、心理専門職として活動するために欠かすことのできない素養や技能を学習する。なお、この授業の単位取得は鈴鹿医療科学大学附属こころ相談センターの研修相談員の条件となるので、必ず1年次に履修すること。
臨床心理実習	大学附属こころの相談センターでの実習やこころのクリニックで関わった事例を通して、臨床心理実践におけるクライアント理解、対応、事例報告の仕方などの基本的な事項を身につける。また、臨床心理実習で担当した具体的なケースをまとめ、ケースカンファレンスで発表することを学ぶ。
心理学研究法特論	心理学の諸領域で実践されている主要な研究法を概観する。心の働きを客観的なデータに基づき実証的に解明するうえで基本となる方法を理解し、現象の捉え方や考え方、仮説の立て方、仮説検証のプロセスを実行するための基礎的な知識を身につける。

臨床心理学分野

	臨床心理学研究法特論	臨床心理学の代表的な研究法として、事例研究について学ぶ。事例研究の果たす役割、形式、テーマの立て方、考察の進め方などの基本について学ぶと同時に、自ら担当したケースを事例研究としてまとめる上での注意、倫理についても学ぶ。
	人格心理学特論	将来心理専門職として臨床心理学的援助を行うにあたり、各種心理検査(質問紙法検査、投影法検査等)についての実施法だけでなく、成り立ちや背景となるさまざまな人格理論を学ぶことを通して修得することを狙いとする。さらに、人格心理学に関する近年の主な研究テーマについて、国内外の文献講読を通して理解を深める。
	精神医学特論	公認心理師、臨床心理士に求められる精神医学の知識(精神疾患の特徴、薬物療法、心理療法など)を学び、重要な諸問題について討議し、理解を深め、臨床場面で対応できるようになることを目標とする。
	投映法特論	ロールシャッハテスト、TAT、描画テストなどの投映法テストを体験的に学習することを通して、臨床心理アセスメントを学ぶ。また、検査後のフィードバックの方法、意義、注意点についても学ぶ。
	心理療法特論	心理療法にはさまざまな学派やアプローチがあるが、実際の臨床場面においては、クライアントの特性や状況、セラピストの個性にあわせて、さまざまな理論や技法を統合して対応している。それぞれの現場やクライアントに適したアプローチを実践することができるようになるための基礎を学ぶ。
共通分野	医学統計特論	医学・医療分野では決定論的な結論を導くことが困難な場合には、データを統計的方法で分析して結論を求めることが多い。本講は既に学部で基礎統計学を学んだことを前提により深く、統計基礎と医学応用を中心に学ぶ。基礎では、確率変数と分布、大数の法則、中心極限定理、近似表現、推定理論と検定理論にスポットを当て、統計の考え方を理解することに重点を置く。医学応用では、標本の大きさデザイン、分散分析ANOVA、臨床試験と疫学における利用について理解する。医学・医療で使う統計手法を理論と応用の両面から修得する。
	医療科学輪講 I	在学期間を通して少なくとも4回、大学院担当教員と全大学院生を対象とした発表会でプレゼンテーションを行う。2回は指導教員の指導の下で、修士論文研究にかかわる原著論文または総説(英文が望ましい)を選び、その内容を紹介する。あとの2回は修士論文研究の計画・進捗状況・研究結果・考察等について報告する。全学生の必修とする。
	医療科学特別研究 I	在学期間を通して指導教員の下で調査や実験を中止して研究を行い、その成果を修士論文としてまとめて発表する。研究課題は、各自の主分野及び分野共通の大学院担当教員の指導研究課題リストの中から選択し、入学願書に希望を申告する。入学後、協議によって指導教員と研究課題を決定する。大学院担当教員と全大学院生を対象とした発表会での発表をもって修士学位論文の審査とする。全学生の必修とする。

## 研究指導教員一覧

分野	職名	教員名	① 専門
			② 研究指導課題名
臨床心理学分野	教授	今井皖式	① 臨床心理学(家族臨床心理学)、深層心理学 ② 表現療法による心理療法の研究
	教授	大谷正人	① 精神医学 ② 児童青年期精神医学及び病跡学に関する研究
	准教授	渡部千世子	① 臨床心理学、発達心理学 ② 障害や難病をもつ子どもと家族の心理および関係発達
	准教授	鈴木亮子	① 高齢者心理学 ② 認知症の人及びその家族への支援に関する研究
	准教授	綾野真理	① 臨床心理学 ② 臨床動作法、学生相談に関する研究
	助教	福島裕人	① 臨床心理学、健康心理学 ② 統合的心理療法、トラウマケア及び笑いの健康効果に関する研究